

VQ 100/VQ 60

3 Way Dual 12" Large Format Loudspeaker for High Performance Installation Applications

VQ 85DF/VQ 64DF

2 Way Down-Firing Dual Concentric Mid-High Loudspeaker for High Performance Installation Applications

VQ 64MH

2 Way Dual Concentric Mid-High Large Format Loudspeaker for High Performance Installation Applications

VQ MB

Dual 12" Mid-Bass Large Format Loudspeaker for High Performance Installation Applications

JP

JP

安全にお使いいただくために

**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. ニ極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。ニ極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。



12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるように手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。

14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カートを使用時の運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたできません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45℃ 以下の温帯気候でご使用ください。

法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Oberheim、Auratone、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2021 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 musictribe.com/warranty にて詳細をご確認ください。

前書き

VQ フルレンジ製品は、独自のドライバーテクノロジーを利用して、コヒーレントな単一点光源を放射し、シングルホーンに結合したときに優れた分散制御を実現します。この高度な設計により、トランスデューサーの音響中心が調整され、喉から発する単一のコヒーレント波面が提供されます。

ドライバーは、2つの同心環状リングダイアフラムを使用します。2つのうち大きい方には3.5 インチのボイスコイルがあり、400 Hz から7 kHz までの周波数を再生します。ここでのもう1つの大きな利点は、ボーカル領域の近くにクロスオーバーがないため、この重要な領域で最も自然で位相のコヒーレントな再生が保証されることです。2 インチ HF ダイアフラムは、パッシブまたはアクティブクロスオーバーを介して7 kHz ～ 22 kHz で引き継ぎます。外部 casting は、高出力処理と非常に低出力圧縮のための良好な熱伝達を保証する広範なヒートシンクを備えています。

コネクタ/ケーブル

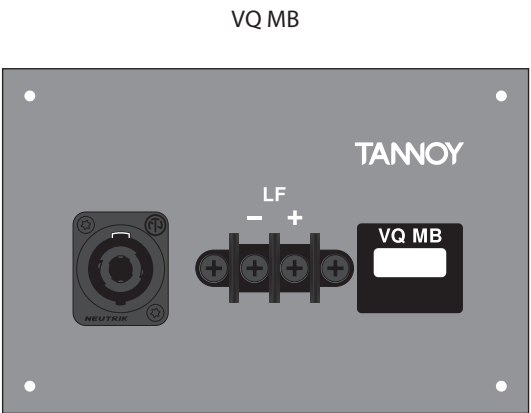
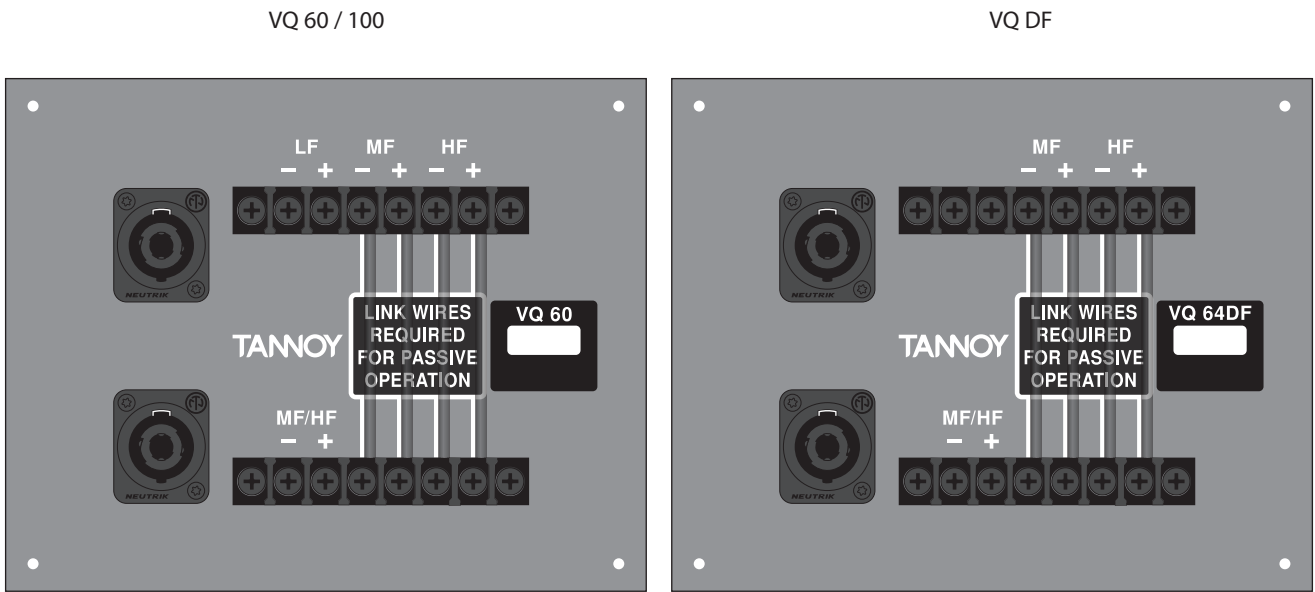
入力コネクタパネル

注: VQ 60 および VQ 100 は、バイアンプ動作の標準として構成されています。

バリアストリップ入力端子を使用してトライアンプ動作が可能です。

VQ DF は、シングルアンプ操作の標準として構成されています。バリアストリップ入力端子を使用してバイアンプ動作が可能です。

VQ MB は、シングルアンプ動作用に構成されています。

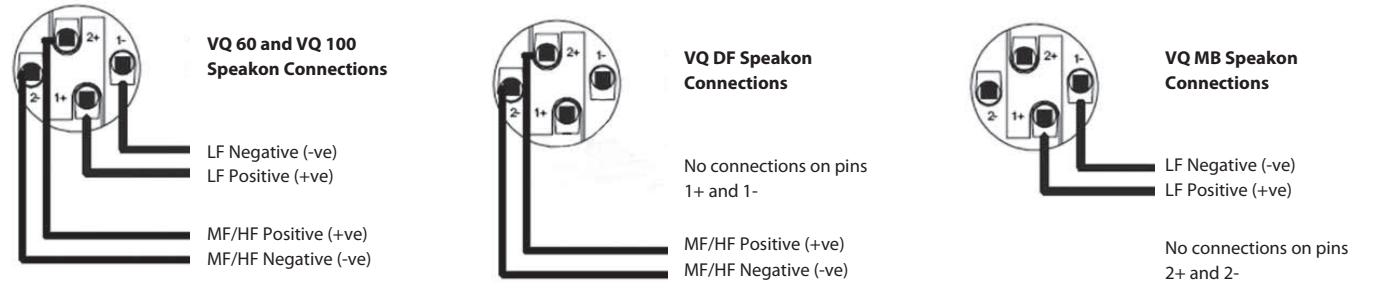


VQ 60、VQ 100、および VQ DF には、固定設置用の4極ノイトリックスピコンコネクタとバリアストリップが取り付けられています。

スピコン接続-

Speakon には、EP および XLR タイプのコネクタに比べて次の利点があります。

すべての終端ははんだレスです。これにより、設置時またはフィールドサービスが必要な場合の作業が楽になります。接点は、外径が最大15 mm、電流定格が30 アンペアの6平方 mm のワイヤを受け入れます。入力パネルの背面にある入力/出力として識別される2つのスピコンソケットのピンは、追加のVQ スピーカー (VQ MB を除く) への接続を容易にするためにエンクロージャー内で並列になっています。Tannoy は、VQ 製品に標準のプロフェッショナルオーディオ配線規則を採用しています。



バリアストリップ接続

バリアストリップは、裸線、錫メッキされたリード、またはスベードコネクタに対応します。バリアストリップは、固定/恒久的な設置で使用するために特別に設計されています。VQ 60 および VQ 100 は、バイアンプ動作用に構成されています。終端パネルの2つのバリアストリップ間の4本のリンクワイヤを取り外すことにより、トライアンプ操作が可能です。VQ DF はシングルアンプ操作用に構成されています。終端パネルの2つのバリアストリップ間の4本のリンクワイヤを取り外すことにより、バイアンプ操作が可能です。

- | | |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| VQ 60/100 バイアンプ – | LF アンプをバリアストリップの一番上の列の LF +/- に接続します。
MF/HF アンプをバリアストリップの下段の MF/HF +/- に接続します。 |
| VQ 60/100 トライアンプ – | LF アンプをバリアストリップの一番上の列の LF +/- に接続します。
MF アンプをバリアストリップの一番上の列の MF +/- に接続します。
HF アンプをバリアストリップの一番上の列の HF +/- に接続します。 |
| VQ DF シングルアンプ – | MF/HF アンプをバリアストリップの下段の MF/HF +/- に接続します。 |
| VQ DF バイアンプ – | MF アンプをバリアストリップの一番上の列の MF +/- に接続します。
HF アンプをバリアストリップの一番上の列の HF +/- に接続します。 |
| VQ MB – | アンプを LF +/- 端子に接続します。 |

追加のスピーカーにループアウトすると、アンプの負荷が軽減されることに注意してください。アンプの負荷を低くしすぎないようにしてください。アンプの定格が最小4 オームの場合は、2 オームの負荷をかけないでください。アンプの定格が2 オームに下がっている場合でも、電力に追いつくために回路には以前よりもはるかに高い電流が流れ、配線で処理する必要があることに注意してください。配線損失が大きくなるだけでなく、システムの減衰係数も低下します。アンプからスピーカーまで別々のケーブルを配線するか、負荷を2つのアンプチャンネルに分割する方がよい場合があります。

ケーブルの選択は、主にケーブルの長さや負荷インピーダンスに関連して正しい断面積を選択することで構成されます。断面積が小さいと、ケーブルの直列抵抗が増加し、電力損失と応答の変動 (減衰係数) が発生します。

コネクタは、2.5 平方 mm (12 ゲージ) 以上のケーブルで配線する必要があります。これは、通常の条件下では完全に満足のいくものです。非常に長いケーブル配線の場合、ワイヤサイズはこれを超える必要があります。次の表は、2つの公称インピーダンス負荷 (4 オームと8 オーム) のケーブルの直径と長さの影響による抵抗、感度損失、および減衰係数の変化を示しています。この表を使用して、必要な配線の長さに適したケーブル直径を決定します。結果として得られる減衰係数については、一般に20 を超える値が高品質のSR システムに適していると見なされます。

Cable Run		Diameter of conductor		Cable Resistance	Wire Loss (dB)		Damping Factor*			
m	ft	mm	awg	ohm	4ohm Load	8ohm Load	4ohm Load		8ohm Load	
5	16	1.5 mm	15	0.10	0.2	0.1	40	✓	80	✓
		2.5 mm	10	0.04	0.1	0	108	✓	216	✓
		4 mm	6	0.01	0	0	255	✓	510	✓
		6 mm	3	0.01	0	0	494	✓	988	✓
10	33	1.5 mm	15	0.20	0.4	0.2	19	✗	41	✓
		2.5 mm	10	0.07	0.2	0.1	55	✓	111	✓
		4 mm	6	0.03	0.1	0	136	✓	272	✓
		6 mm	3	0.01	0	0	282	✓	563	✓
25	82	1.5 mm	15	0.49	1	0.5	8	✗	16	✓
		2.5 mm	10	0.18	0.4	0.2	23	✓	45	✓
		4 mm	6	0.07	0.1	0.1	57	✓	114	✓
		6 mm	3	0.03	0.1	0	123	✓	246	✓
50	164	1.5 mm	15	0.98	1.9	1	4	✗	8	✗
		2.5 mm	10	0.35	0.7	0.4	11	✗	23	✓
		4 mm	6	0.14	0.3	0.1	29	✓	58	✓
		6 mm	3	0.06	0.1	0.1	64	✓	127	✓
100	328	1.5 mm	15	1.95	3.5	1.9	2	✗	4	✗
		2.5 mm	10	0.70	1.4	0.7	6	✗	11	✗
		4 mm	6	0.27	0.6	0.3	15	✗	29	✓
		6 mm	3	0.12	0.3	0.1	32	✓	65	✓

*結果の減衰係数の数値は、高品質のプロフェッショナルアンプを使用して導き出されています

極性チェック

スピーカーシステムを飛ばす前に、配線の極性を確認することが最も重要です。LF ユニットのパルススペースの極性チェッカーなしでこれを行う簡単な方法は次のとおりです。2本のワイヤーを PP3 バッテリーの +ve および -ve 端子に接続します。バッテリーの +ve 端子に接続されているワイヤーをスピーカーコネクターのピン 1+ に接続されていると思われるスピーカーケーブルレッグに接続し、同様にバッテリーの -ve レッグをピン 1- に接続します。

正しく配線すると、LF ドライブユニットが前方に移動し、配線が正しいことを示します。残っているのは、+ve スピーカーのリード線をアンプの +ve 端子に接続し、-ve リード線をアンプの -ve 端子に接続することだけです。ただし、LF ドライバーが後方に移動する場合は、入力接続を反転する必要があります。

使用できる市販の極性チェッカーもあります (IviePAL™、NTI™)。SMAART™、SYSTUNE™、CLIO™、MLSSA™ などのスペクトラムアナライザを使用して、最初の正のスイングのインパルス応答をチェックすることにより、システムを試運転する場合。チェックする前に、EQ とクロスオーバーフィルタリングが削除されていることを確認してください。

問題が発生した場合は、最初にケーブルの配線を調べてください。複数のメーカーのアンプを使用している場合は、アンプとスピーカーの極性を確認してください。

増幅と電力処理

すべてのプロ仕様のスピーカーシステムと同様に、電力処理はボイスコイルの熱容量の関数です。アンプがクリップにぶつからないように注意する必要があります (クリップはアンプをオーバードライブした結果です)。アンプを長時間クリップに押し込むと、スピーカーの損傷が持続します。少なくとも 3 dB のヘッドルームを許可する必要があります。アンプを評価するときは、低インピーダンスの負荷条件下での動作を考慮することが重要です。ラウドスピーカーシステムは反応性が高く、過渡信号の場合、公称インピーダンスが示すよりも多くの電流を必要とする可能性があります。

一般に、歪みのない高出力アンプは、低出力アンプが継続的にクリッピングするよりもスピーカーへのダメージが少なくなります。また、出力電力の 90 % 未満で動作する高出力アンプは、一般に 100 % で動作する低出力アンプよりもはるかに優れていることを覚えておく価値があります。駆動能力が不十分なアンプでは、フルパフォーマンスやスピーカーを実現できません。

単一の設置で異なるメーカーのアンプを使用する場合、ゲインが非常に厳密に一致していることが重要です。変動は +/- 0.5dB 未満である必要があります。この予防措置は、単一のアクティブクロスオーバーのみが複数のキャビネットで使用されている場合、システム全体のバランスにとって重要です。したがって、全体を通して同じアンプを使用することをお勧めします。

仕様ページには、VQ スピーカーの電力処理能力が 3 つのカテゴリーで引用されています。-

平均 (RMS)、プログラム、およびピーク

スピーカーの仕様に記載されているプログラムパワーを使用して、正しいアンプを選択することをお勧めします。VQ スピーカーの最大の可能性を実現するには、アンプの定格連続電力は、公称インピーダンスでのスピーカーのプログラム電力と等しくなければなりません。

VQ Series Recommended Amplifier Power	
VQ60/100	Power Requirement
Low Frequency	2000 W into 4 ohms
Passive MF/HF	400 W into 8 ohms
Mid Frequency	400 W into 8 ohms
High Frequency	200 W into 8 ohms
VQ DF	
Passive MF/HF	400 W into 8 ohms
Mid Frequency	400 W into 8 ohms
High Frequency	200 W into 8 ohms
VQ MB	
2000 W into 4 ohms	

スピーカー管理システム

Tannoy VQ シリーズスピーカーは、クロスオーバー、イコライゼーション、ディレイ、ダイナミック機能を提供する電子信号プロセッサーで使用するよう設計されています。LAKE ロードライブラリのファクトリプリセットを備えた Lab Gruppen PLM + または D シリーズを強くお勧めします。LAKE ロードライブラリの同じファクトリプリセットを使用する LAKE LM26/44 DSP と、選択した VQ キャビネットに適切な出力電力を備えたモデルを使用する Lab Gruppen C シリーズまたは FP + シリーズもお勧めします。Lab Gruppen CAFE ソフトウェアは、PLM + または D シリーズ製品の可能な限り最良の組み合わせをすべての Tannoy スピーカー製品に選択するための包括的なソリューションを提供し、ユーザーが電力供給、電力消費、熱出力、ケーブルインフラストラクチャ要件、および BOM 計算機の正確な技術データを取得できるようにします。LAKE および LabGruppen 製品の詳細については、[www](#).にアクセスしてください。

リギングとサスペンション

このガイドで説明する VQ ハードウェアは、特定の VQ スピーカーを取り付けるための迅速でシンプルかつ安全なソリューションを提供するように設計されています。このハードウェアは、その特定の役割のために高い安全負荷率で設計および製造されています。このガイドに記載されているハードウェアを可能な限り安全に使用するには、指定された指示に厳密に従って組み立てる必要があります。これらのアクセサリの組み立てと安全な使用に関するこれらのマニュアルの情報を理解し、それに従う必要があります。

専用ハードウェアを使用した VQ スピーカーの設置は、設置場所で適用されるすべての必要な安全コードと基準に従って、完全に資格のある設置者のみが実行する必要があります。

警告:飛行に関する法的要件は国によって異なるため、製品を設置する前に、最寄りの安全基準局にご相談ください。また、作業を開始する前に、法律や細則を十分に確認することをお勧めします。

VQ ハードウェアは、VQ シリーズスピーカーでのみ使用するように設計されており、他の Tannoy Commercial 製品や他のメーカーのデバイスで使用するようには設計または意図されていません。このガイドに示されている以外の目的で Tannoy Professional ハードウェアを使用することは、不適切な使用と見なされます。このような使用は、オーバーロード、変更など、非常に危険な場合があります。マニュアルに明記されている以外の方法で組み立てたり、VQ ハードウェアを損傷したりすると、安全性が損なわれます。VQ ハードウェアデバイスの構成部品は、付属のアクセサリキットを使用し、ユーザーマニュアルに厳密に準拠してのみ組み立てる必要があります。他のアクセサリや承認されていない組み立て方法を使用すると、負荷の安全率が低下し、ハードウェアシステムが安全でなくなる可能性があります。溶接、

VQ ハードウェアデバイスを使用して VQ スピーカーを表面に固定する場合は常に、設置者は表面が安全かつ確実に負荷を支えることができることを確認する必要があります。使用するハードウェアは、安全かつ確実に、マニュアルに従って、スピーカーと問題の表面の両方に、標準で提供され、マニュアルでカバーされている固定穴のみを使用して取り付けられている必要があります。建物の構造をしっかりと固定することが重要です。疑問がある場合は、建築家、構造エンジニア、またはその他の専門家に助けを求めてください。

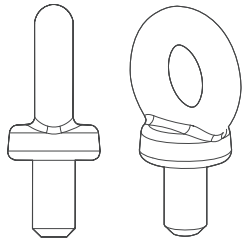
飛行するすべてのスピーカーには、主要なハードウェアデバイスに加えて、独立した、正しく定格され、しっかりと取り付けられた二次安全装置が備わっている必要があります。この二次的な安全性により、主要なハードウェアデバイスに障害が発生した場合に、スピーカーが 150 mm (6") を超えて落下するのを防ぐ必要があります。

警告:手持ちでの使用を除いて、いかなる状況でもスピーカーのハンドルを使用してスピーカーの重量を支えないでください。ハンドルは、一時的または恒久的な設置のためにスピーカーの負荷をサポートするように評価されていません。

ラウドスピーカーの VQ 範囲は、吊り下げまたはグラウンドスタックを目的としています。このセクションでは、VQ フライウェアとアレイを物理的に構成する方法について詳しく説明します。以下は、ほとんどの状況で推奨される方法です。特定の状況では、他の方法が必要になる場合があります。代替方法の実行可能性と安全性を判断し、それに応じてそれらを実装するのはユーザーの責任です。

アイボルトを使用して単一の VQ キャビネットを飛行する

単一の VQ キャビネットを飛行させる最も簡単な方法は、上部に M10 ショルダーアイボルトのペアを使用し、キャビネットの背面にある 3 番目のアイボルトを使用してキャビネットを傾けることです。



VEB 鍛造アイボルト

VQ スピーカーは、BS4278:1984 にカラー付きの高品質 VEB M10 アイボルトで飛ばすことができます。スピーカーには、フライングポイントを兼ねる内部スチールブレースが装備されており、VEB M10 アイボルトを受け入れます。

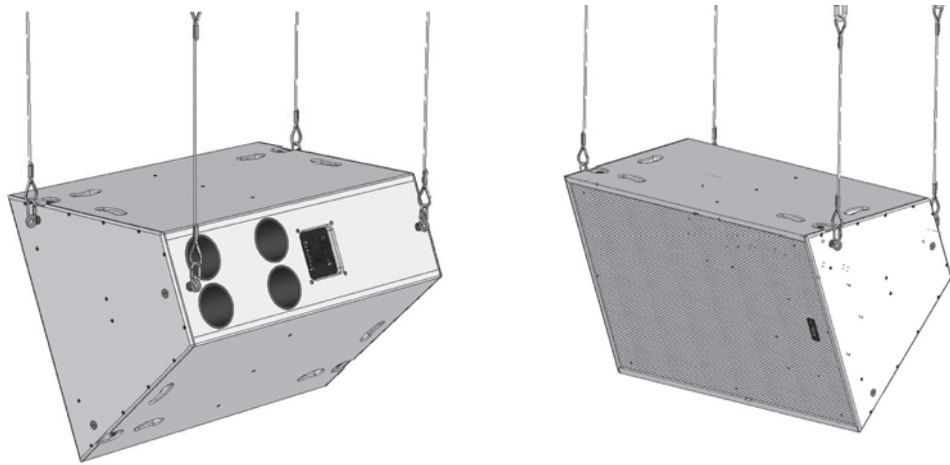
VEB M10 アイボルトを取り付けるには、VEB M10 アイボルトを取り付ける場所から元の M10 皿ネジを取り外します。次に、これらの皿穴付き M10 ネジを VEB M10 アイボルトと交換します。キャビネットの背面にある M10 インサートは、VEB M10 アイボルトにも対応しており、スピーカーを希望の角度に傾けるために使用する必要があります。



重要:安全上の理由から、キャビネットごとに 2 つの独立して固定されたストラップにリンクされた最低 2 つのアイボルトを使用することが不可欠です。アイボルトを使用して、一方のエンクロージャーをもう一方のエンクロージャーから吊り下げないでください。

形成されたアイボルト、つまり鋼棒から形成され、目に曲げられたアイボルトを使用しようとししないでください。

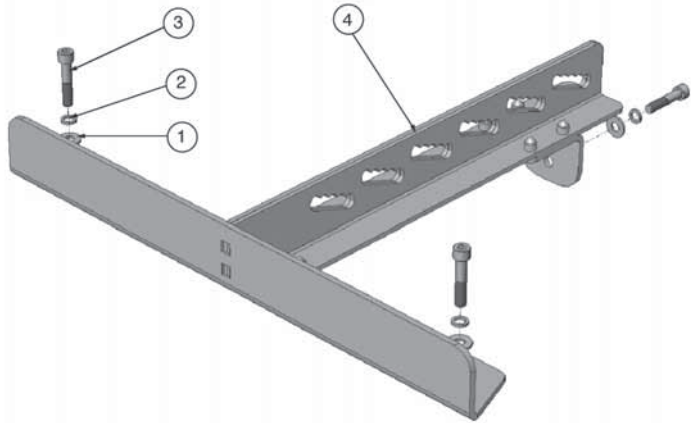
EBS 鍛造アイボルトを使用して横向きで単一の VQ キャビネットを飛行する



VQ フライングブラケット (シングルポイントハングフライングブラケット)

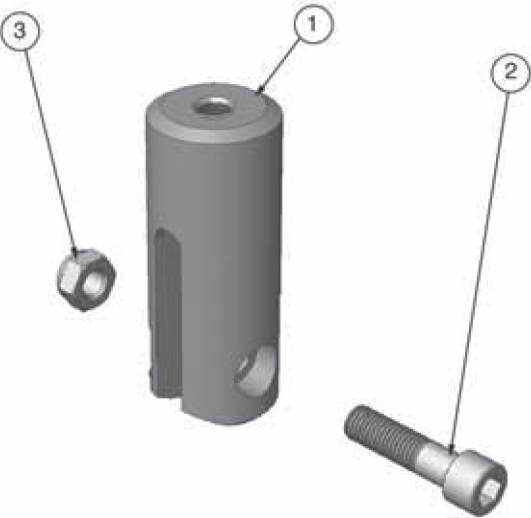
安全で柔軟かつシンプルなフライングのために、VQ フライングブラケットは VQ キャビネットを単一のピボットポイントから吊り下げるように設計されています。これにより、キャビネットをその場で照準角度を正確に調整できます。フライング VQ スピーカーには、主要なハードウェアデバイスに加えて、独立した、正しく定格され、しっかりと取り付けられた二次安全装置が備わっている必要があります。この二次的な安全性により、主要なハードウェアデバイスに障害が発生した場合に、スピーカーが 150 mm (6 インチ) を超えて落下するのを防ぐ必要があります。

注:すべての固定具は、スレッドロックして 25 Nm のトルクで締める必要があります。



Item No.	Description	Quantity
1	M10 Plain Washer	3
2	M10 Spring Washer	3
3	Screw M10 x 50mm	3
4	Bracket Flying - VQ	1

ロッドエンドは VQ フライングブラケットと組み合わせて使用します。ロッドエンドには 2 種類あります。1 つは ½ インチ UNC ネジ付きロッドを受け入れるように設計されており、もう 1 つは 12 mm ネジ付きロッドを受け入れます。(ユーザーが用意したねじ棒)。



Item No.	Description	Quantity
1	Rod End – VQ ½" UNC or 12mm	3
2	Screw M12x45 Cap Head	3
3	M12 Nyloc Nut	3

キャビネットの上部にある前面の2つの皿ネジ M10 ネジと、キャビネットの背面上部にある上部の M10 皿ネジを取り外します。図のようにフライングブラケットを組み立てます。(図1を参照)

重要: VQ フライングブラケットの組み立てには、付属のネジ、留め具、防振、平ワッシャーのみを使用してください。注:すべての固定具は、スレッドロックして 25 Nm のトルクで締める必要があります。

所定の位置に固定すると、ロッドの端を各スロット内の5つの鋸歯状のエッジのいずれかに沿って移動して、スピーカーの傾斜角度を微調整できます。(図2を参照) 使用するねじ棒の長さは 300 mm (12") 以下である必要があります。正しいねじ棒を提供するのはユーザーの責任です。ねじ棒の最小仕様は次のとおりです。

米国 - グレード B7 (1438 ポンド、安全率 10:1 に基づく ½" ロッドの場合は 650 kg)

メートル法 - グレード 10.9 (1459 lbs、安全率 10:1 に基づく 12mm ロッドの場合 660kg)

適切なナットを使用して、ロッドの端をネジ付きロッド (ユーザーが用意) にロックします。ネジ付きロッドの上部にある Nyloc ナットを使用して、ポールクランプを固定します (ユーザーが用意)。

ネジ付きロッドは、適切な定格の Uni-Strut アクセサリーに取り付けることができます。

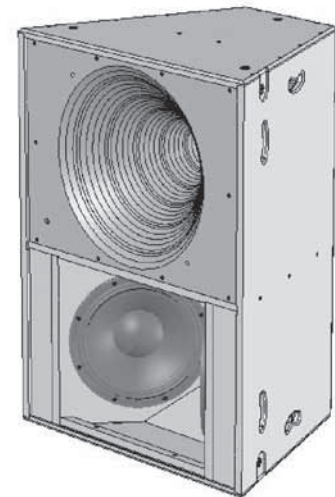
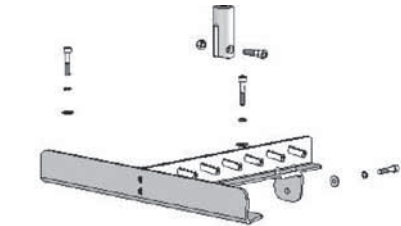
ネジ付きロッドをポールクランプまたはユニストラットに固定するには、常に Nyloc ナットを使用してください。

フライングサウンドシステムのリギングは、必要なタスクを実行するために必要な経験と資格を持った資格のある担当者が行わない限り、危険な場合があります。

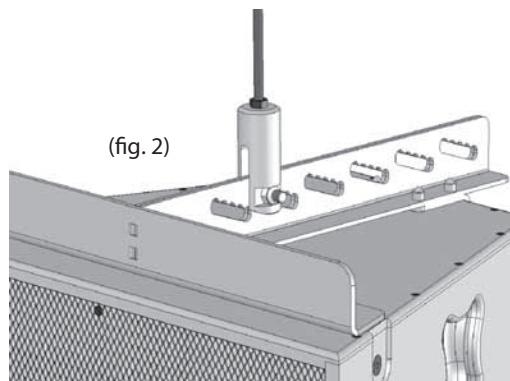
屋根の吊り下げポイントの固定は、常にプロのリガーが、会場の現地の規則に従って行う必要があります。

最大 VQ 60 + VQ MB + VQ DF (350 lbs、160 kg) は、単一のねじ付きロッドから飛ばすことができます。この組み合わせの安全率は 8:1 です。(図3を参照)

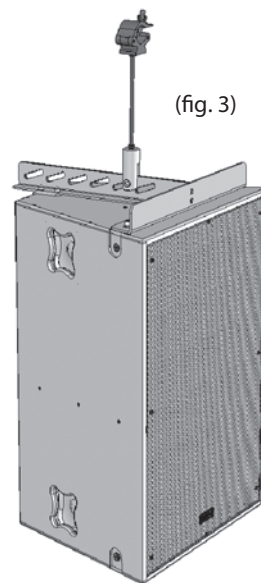
(fig. 1)



(fig. 2)



(fig. 3)

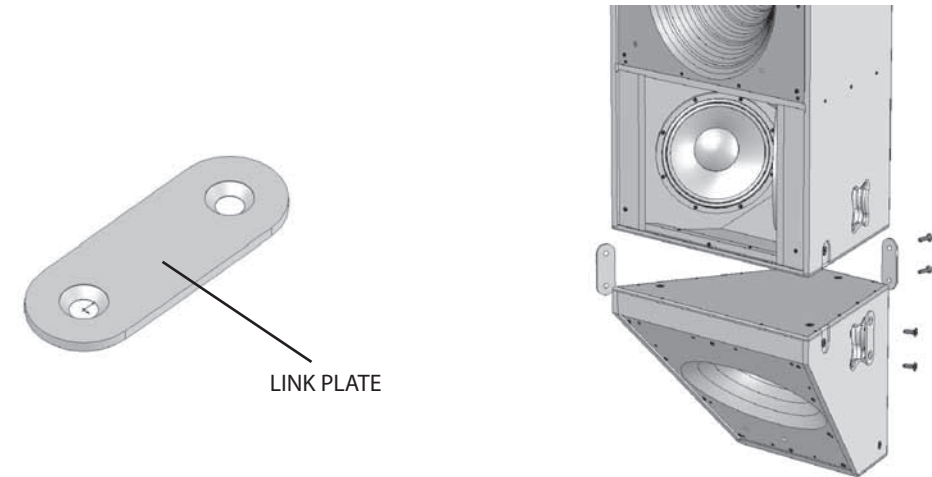


VQ リンクプレート

VQ リンクプレートは、VQ DF または VQ MB を VQ 60 または VQ 100 キャビネットに結合するために使用されます。各キャビネットの接続には、3つのリンクプレートが使用されます。リンクプレートは、各 VQ DF および VQ MB に標準で付属しています。

反対の図に示すように、M10 皿ネジを取り外します。同じネジを使用して、リンクプレートを所定の位置に固定します。リンクプレートは、キャビネットのくぼみにぴったりと収まります。リンクプレートには、2本の長い M10 ボルトが付属しています。これらのボルトは、リアリンクプレートを所定の位置に固定するために使用する必要があります。

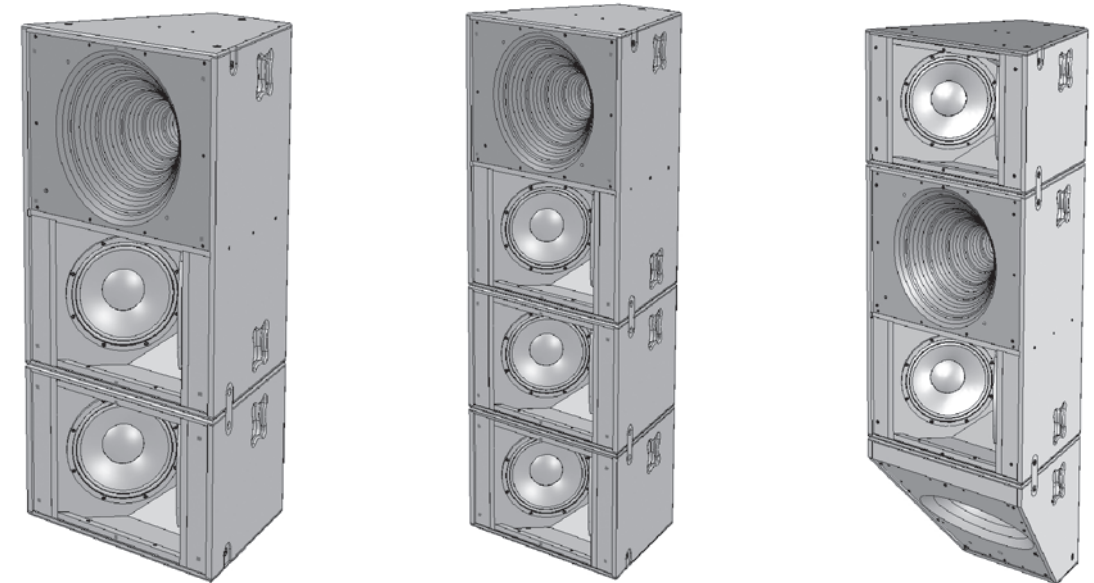
注:すべての固定具はスレッドロックされ、25 Nm のトルクで締められる必要があります



追加のパターン制御のための VQ MB の使用

VQ リンクプレートは、VQ DF または VQ MB を VQ 60 または VQ 100 キャビネットに結合するために使用されます。各キャビネットの接続には、3つのリンクプレートが使用されます。リンクプレートは、各 VQ DF および VQ MB に標準で付属しています。

反対の図に示すように、M10 皿ネジを取り外します。同じネジを使用して、リンクプレートを所定の位置に固定します。リンクプレートは、キャビネットのくぼみにぴったりと収まります。リンクプレートには、2本の長い M10 ボルトが付属しています。これらのボルトは、リアリンクプレートを所定の位置に固定するために使用する必要があります。



JPVQ 60 の配列

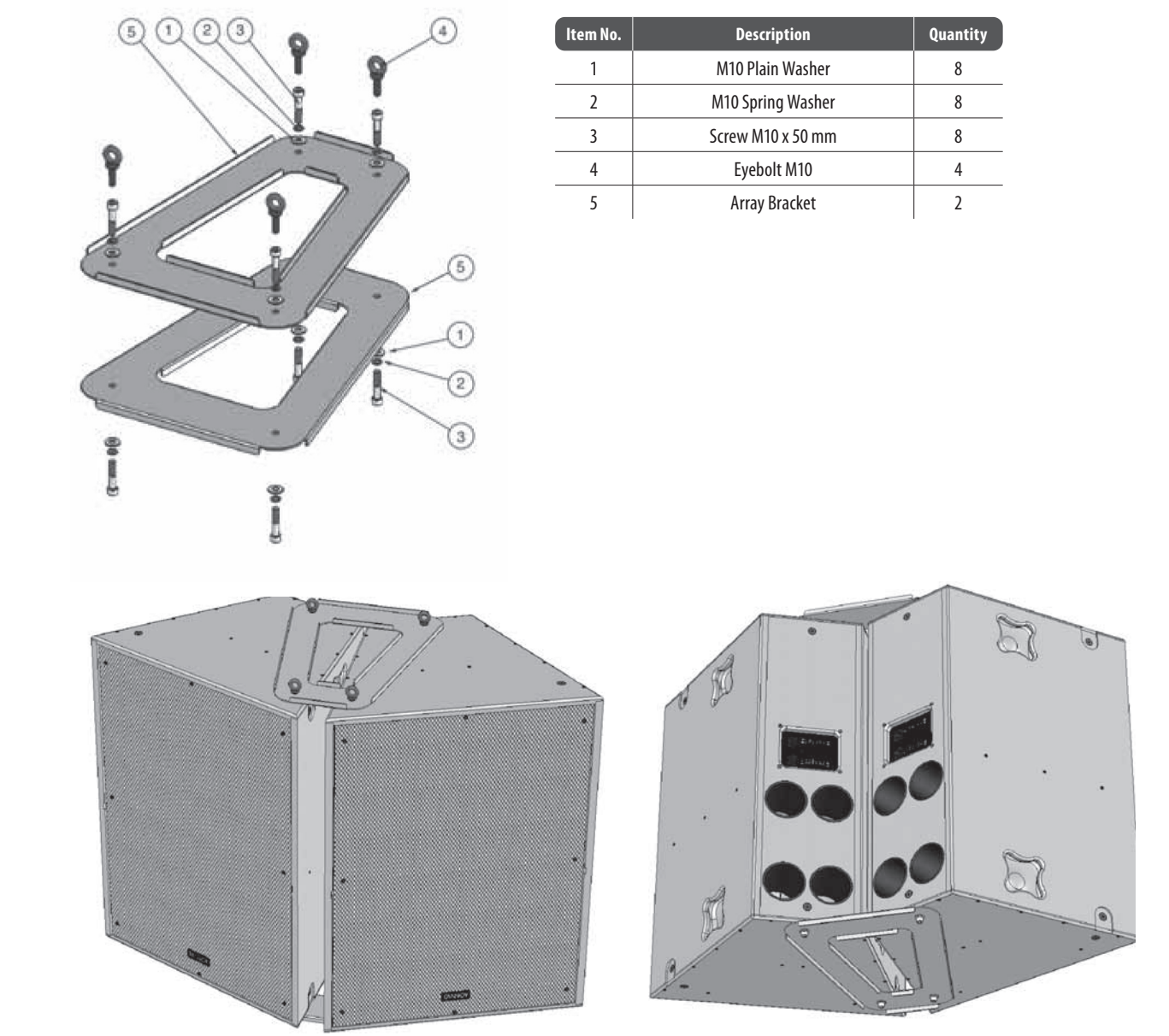
単一の VQ 100 は、複数のキャビネットを使用する多くのアレイソリューションよりも、100 度のビーム幅領域でより多くの電力と明瞭さを生み出すことができます。これは、建物の美観を考慮する場合に大きな利点です。VQ 100 は、配列されるようには設計されていません。

2 つの VQ 60 を配列して、120 度の明確に定義された水平カバレッジ角度を生成できます。

VQ アレイプレートは、2 つの VQ 60 キャビネットを最適にアレイするように設計されています。プレートを取り付けるには、キャビネットの後端が接触するようにボックスを地面に置きます。2 本の M10 皿ボルトを取り外し、M10 ネジまたは付属のアイボルトと交換します。付属の固定キットから 4 つの M10 アイボルトを見つけ、アレイプレートを通してキャビネットのリギングポイントに挿入します。これらはアレイを持ち上げるために使用されます。キャビネットの下部で同じ手順を繰り返し、M10 ネジを使用します。横向きで飛行する場合は、M10 ネジを両方のアレイプレートで使用できます。

注:すべての固定具はスレッドロックされ、25 Nm のトルクで締められる必要があります

アレイを一時停止するには、2 つの独立したピックアップポイントをお勧めします。主なピックアップポイントは、2 つのリアアイボルトです。2 つのフロントアイボルトは安全ポイントとして使用できます。



Item No.	Description	Quantity
1	M10 Plain Washer	8
2	M10 Spring Washer	8
3	Screw M10 x 50 mm	8
4	Eyebolt M10	4
5	Array Bracket	2

技術仕様

	VQ 100	VQ 60	VQ 85DF
システム			
周波数応答 (-3 dB)	115 Hz - 23 kHz	115 Hz - 23 kHz	400 Hz - 23 kHz
周波数範囲 (-10 dB)	90 Hz - 27 kHz	90 Hz - 27 kHz	350 Hz - 27 kHz
感度 (1 W @ 1 m)	111 dB	115 dB	111 dB
分散 (-6 dB)	100 度の円錐形	60 度の円錐形	80 x 50 度
ドライバーコンポーネント	LF-2 x 300 mm (12") 低周波トランスデューサー、セミホーン搭載	LF-2 x 300 mm (12") 低周波トランスデューサー、セミホーン搭載	該当なし
	MF/HF - 単一の PSW 導波管にロードされたデュアル同心圧縮ドライバー	MF/HF - 単一の PSW 導波管にロードされたデュアル同心圧縮ドライバー	MF/HF - 単一の PSW 導波管にロードされたデュアル同心圧縮ドライバー
クロスオーバー	該当なし	Biamp - 450 Hz (アクティブ)、7 kHz (パッシブ) トライアンプ - 450 Hz、7 kHz (アクティブ)	単一増幅 - 7 kHz (パッシブ) バイアンプ - 7 kHz (アクティブ)
指向性係数 (Q)	8.5	21.2	13.3
指向性指数 (DI)	9.3	13.3	11.2
最大 SPL	平均 135 dB、ピーク 141	平均 138 dB、ピーク 144 dB	平均 134 dB、ピーク 140
パワーハンドリング			
LF @ 4 Ω	1000 W 続き、2000 W ピーク	1000 W 続き、2000 W ピーク	該当なし
MF @ 8 Ω	200 W 続き、400 W ピーク	200 W 続き、400 W ピーク	200 W 続き、400 W ピーク
HF @ 8 Ω	90 W 続き、180 W ピーク	90 W 続き、180 W ピーク	90 W 続き、180 W ピーク
パッシブ MF/HF @ 8 Ω	200 W 続き、400 W ピーク	200 W 続き、400 W ピーク	200 W 続き、400 W ピーク
公称インピーダンス	LF - 4 Ω、MF - 8 Ω、HF - 8 Ω	LF - 4 Ω、MF - 8 Ω、HF - 8 Ω	MF - 8 Ω、HF - 8 Ω
エンクロージャー			
建設	18 mm (0.71) バーチ合板、内部ブレース		
グリル	粉体塗装の穴あきスチールグリル		
終了	テクスチャードブラックまたはホワイトペイント		
コネクタ	バリアストリップとスピコンコネクタ		
継手	8 x 埋め込み式キャリングハンドル、12 x M10 フライングインサート		2 x 埋め込み式キャリングハンドル、12 x M10 フライングインサート
寸法	925 x 694 x 515 mm (36.4 x 27.3 x 20.3")	925 x 694 x 515 mm (36.4 x 27.3 x 20.3")	500 x 694 x 515 mm (19.7 x 27.3 x 20.3")
重量	65 kg (143 ポンド)	77 kg (169 ポンド)	27.0 kg (59.4 ポンド)

JP

技術仕様

	VQ 64DF	VQ 64MH	VQ MB
システム			
周波数応答 (-3 dB)	400 Hz - 23 kHz	400 Hz - 23 kHz	115 Hz - 500 Hz
周波数範囲 (-10 dB)	350 Hz - 27 kHz	350 Hz - 27 kHz	90 Hz - 600 Hz
感度 (1 W @ 1 m)	114 dB	115 dB	105 dB
分散 (-6 dB)	60 x 40 度	60 x 40 度	該当なし
ドライバーコンポーネント	該当なし	該当なし	LF-2 x 300 mm (12") 低周波トランス デューサー、セミホーン搭載
	MF/HF - 単一の PSW 導波管にロ ードされたデュアル同心圧縮ド ライバー	MF/HF - 単一の PSW 導波管にロ ードされたデュアル同心圧縮ド ライバー	該当なし
クロスオーバー	単一増幅 -7 kHz (パッシブ) パイ アンプ -7 kHz (アクティブ)	単一増幅 -7 kHz (パッシブ) パイ アンプ -7 kHz (アクティブ)	該当なし
指向性係数 (Q)	19.3	21.3	該当なし
指向性指数 (DI)	12.9	13.3	該当なし
最大 SPL	平均 137 dB、ピーク 143	平均 138 dB、ピーク 144	平均 135 dB、ピーク 141
パワーハンドリング			
LF @ 4 Ω	該当なし	該当なし	1000 W 続き、2000 W ピーク
MF @ 8 Ω	200 W 続き、400 W ピーク	200 W 続き、400 W ピーク	該当なし
HF @ 8 Ω	90 W 続き、180 W ピーク	90 W 続き、180 W ピーク	該当なし
パッシブ MF/HF @ 8 Ω	200 W 続き、400 W ピーク	200 W 続き、400 W ピーク	該当なし
公称インピーダンス	MF - 8 Ω、HF - 8 Ω	MF - 8 Ω、HF - 8 Ω	LF - 4 Ω
エンクロージャー			
建設	18 mm (0.71) パーチ合板、内部ブレース		
グリル	粉体塗装の穴あきスチールグリル		
終了	デクスチャードブラックまたはホワイトペイント		
コネクタ	バリアストリップとスピコンコネクタ		
継手	2 x 埋め込み式キャリングハンドル、12 x M10 フライングインサート		
寸法	500 x 694 x 515 mm (19.7 x 27.3 x 20.3")	510 x 694 x 515 mm (20.1 x 27.3 x 20.3")	433 x 694 x 515 mm (17.1 x 27.3 x 20.3")
重量	29.5 kg (64.9 ポンド)	45.5 kg (100.1 ポンド)	37 kg (81.6 ポンド)

その他の重要な情報

JP

その他の重要な情報

1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:
ユニットをパワーソケットに接続する前
に、各モデルに対応した正しい主電源を
使用していることを確認してください。
ユニットによっては、230 V と 120 V の
2 つの違うポジションを切り替えて使う、
ヒューズの格納部を備えているものが
あります。正しくない値のヒューズは、
絶対に適切な値のヒューズに交換されて
いる必要があります。
2. 故障: Music Tribe ディーラーがお客様
のお近くにはないときは、musictribe.com の
“Support” 内に列記されている、お客様の国
の Music Tribe ディストリビューターにコン
タクトすることができます。お 客様の国
がリストにない場合は、同じ musictribe.com
の “Support” 内にある “Online Support” でお客
様の問題が処理できないか、チェックし
てみてください。あるいは、商品を返送
する前に、musictribe.com で、オンラインの
保証請求を要請してください。
3. 電源接続: 電源ソケットに電源コー
ドを接続する前に、本製品に適切な電圧
を使用していることをご確認ください。
不具合が発生したヒューズは必ず電圧お
よび電流、種類が同じヒューズに交換す
る必要があります。

